

こうどうひと
■行動人講座

B【実践コース】地域・家庭応援隊エアンベで活動しよう（定員10名）

日	時	テーマ	講師
B (全受講となります)	8/22 (木)	地域の課題に気づく視点をもとう ～住民をエンパワメントする講座をめざして～	秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木 久 長 氏
	8/29 (木)	多様な価値観に基づく地域のあり方について議論しよう ～自分の考えと相手の考えの共通点と相違点を意識して～	
	9/5 (木)	生活課題に関する情報を集め、自分たちでできる企画を考えよう ～今、何を考えたいか？～	
	9/12 (木)	「よりよい地域・よりそう地域」をめざす企画の 具体的な準備を進めよう ～考えを共有するために～	
	9/19 (木)	「よりよい地域・よりそう地域」をめざす 企画のリハーサルをしよう ～自分たちが伝えたいことを再確認～	
	未 定 (受講者が自分たちで設定します)	自主企画を実践し、エアンベの活動を広げるアイデアを考えよう	

本講座は、地域づくり・子育てなど様々な生活課題の現状を探り、その解決や支援のために地域住民とともに何ができるかを考え実践する講座です。本講座は、秋田大学大学院医学系研究科 佐々木久長准教授を講師に迎え、秋田県の課題について話し合いました。多様な価値観を認め合いながら、「よりよい地域・よりそう地域」をめざすための自主企画を、受講者が立案し運営も行います。

全6回の予定でしたが、自主企画の内容や運営・企画について話し合う時間が足りなくなってしまう、自主企画までの間に、3回の追加講座を実施しました。

B1 8月22日（木）

「地域の課題に気づく視点をもとう～住民をエンパワメントする講座をめざして～」



初めに、県生涯学習センターあきたスマートカレッジ担当の宮腰 徹 主任社会教育主事から講座の趣旨を伝えてもらいました。次に、佐々木准教授からは、講座で意識して欲しいこととして、①幸せという感覚②相手の立場③挑戦すること、という3つのポイントを伝えてもらいました。自己紹介をする中で、お互いのことを理解しようとする姿が見えました。それぞれが考える秋田県が抱える課題について、次回以降、みんなで話し合うことを確認しました。中学生、高校生、大学生を始め、90歳までの幅広い年代の参加者による講座となりました。

B2 8月29日（木）

「多様な価値観に基づく地域のあり方について議論しよう～自分の考えと相手の考えの共通点と相違点を意識して～」

一人一人の性格を共通点から類型化し、同じグループで話し合いをしました。視点や切り口等同じような考え方を持っている人同士で集まると話が弾むようであります。

前回の講座を基に、「私が考える秋田県の課題」について一人3分以内で発表できるように考えてくるという宿題が出されました。

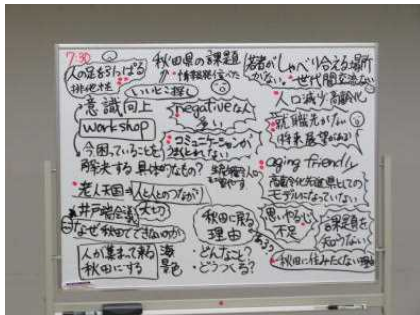


B3 9月5日 (木)

「生活課題に関する情報を集め、自分たちでできる企画を考えよう～今、何を考えたいか?～」

一人一人から秋田県の課題について発表し、講座担当がホワイトボードにグラフィックレコーディングの手法でまとめました。

課題把握&目的共有に多くの時間を割いたため、企画を考える段階までは至りませんでした。しかし、課題をはっきりさせたことで、自分たちでできる企画へ一歩近づくことができました。



B4 9月12日 (木)

『「よりよい地域・よりそう地域」をめざす企画の具体的な準備を進めよう～考えを共有するために～」

年代ごと（ヤング、ミドル、アダルト）に分かれ、課題や企画について話し合い、全体で共有しました。

前回の講座で提案された「Aging Friendly（エイジングフレンドリー）な社会になるために」をサブタイトルに据えたことで、各年代で課題とすることが違うことが分かり、方向性が明確になってきました。エイジングフレンドリーには、どの年代にもやさしく親しみやすいという意味があります。

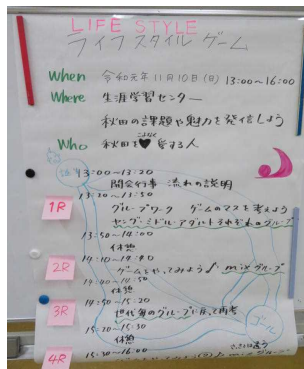
また、講師の佐々木先生から地域づくりや豊かな高齢化社会に関する新聞資料として、徳島県での助け合い組織の例を提示してもらいました。



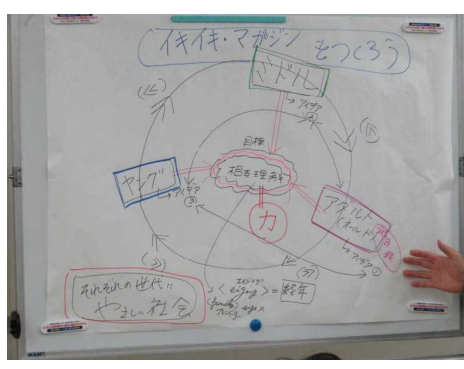
B5 9月19日 (木)

『「よりよい地域・よりそう地域」をめざす企画のリハーサルをしよう～自分たちが伝えたいことを再確認～」

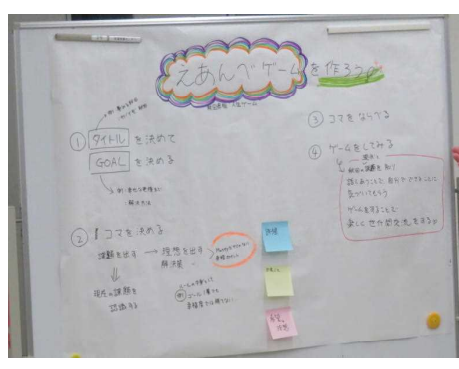
幸せという感覚、相手の立場、挑戦することに加えて、「エンパワメント」というキーワードを意識することで伝えたいことの具体が見えてきました。それぞれの世代が考えた企画案をプレゼンし、世代間の相互理解が進みました。



ヤング



ミドル



アダルト

B追加1 9月26日(木) B追加2 10月3日(木) B追加3 10月31日(木)

『『よりよい地域・よりそう地域』をめざす企画のリハーサルをしよう～自分たちが伝えたいことを再確認～』

ヤング、ミドル、アダルトの企画をミックスして、「スゴロクを楽しみながら、秋田県の課題について話し合ったり、考えたりするゲーム」をすることになりました。企画運営の役割分担、練習は3回の講座追加により、発想が広がり、意見が収斂されていきました。ちなみにアダルトは「銀色族」と名前を変えました。



追加 1



追加 2



追加 3

B 6 11月10日(日)

受講生企画「エアンベ秋田双六(スゴロク)を作ろう～エイジングフレンドリーな秋田をめざして～」

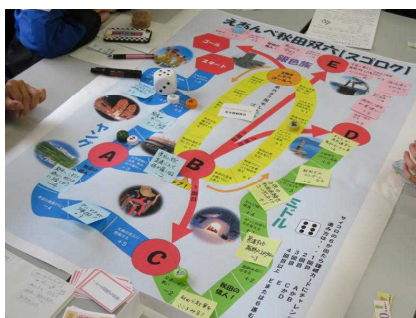
当日は、小学3年生から60歳代までの16名が参加しました。15名の受講者がスタッフとして受付、司会、ビデオ係、ゲームディーラー等を務めました。

参加者からは、「スゴロクを通してたくさんの視点から秋田の世代ごとに向き合うべき課題を整理できた」「秋田の課題が自分自身の課題でもあると感じることができ、良い体験だった」「若い世代の厳しい意見が新鮮でおもしろかった」等の感想が寄せられました。

受講生からは、「今後も継続して企画したい」という前向きな意見がありました。実際に、数名の受講生は、このスゴロクを別の機会で試してみたとのこと。また、CNA秋田ケーブルテレビの番組で特集してもらいました。また、受講生が撮り、編集したものもケーブルテレビで放送し、その後、YouTubeに掲載しました。



スゴロク実施中



スゴロクに意見を追加



会場の様子



司会の中学生と高校生



話し合いの結果発表中



講座参加者

この講座全体を通して、最終的にスゴロクが、人生の疑似体験を通して秋田県の課題について考え、話し合うことができるツールとして優れたものだということが分かった。世代間の考えをすり合わせ、論点を統一することの難しさを知った。

今回の講座で作成した秋田双六が、他のバージョンでも活用できる可能性を秘めている。リメイクして、広げて欲しいと思う。

